

# 第 6 次広島県病院事業経営計画 (更新版)

**【素案】**

令和 5 年 3 月  
広島県病院事業局



# 目次

1	計画策定の経緯及び目的	1
2	計画の更新について	2
3	第6次計画期間中の成果及び課題	3
	（1）広島病院	
	（2）安芸津病院	
4	課題解決に向けた取組方針	7
	（1）広島病院	
	（2）安芸津病院	
5	第6次計画期間中の決算（見込み）及び 令和5年度の収支計画	10
	（1）病院事業全体	
	（2）広島病院	
	（3）安芸津病院	
6	目標指標	13
	（1）広島病院	
	（2）安芸津病院	
7	用語解説	調整中

## 1 計画策定の経緯及び目的

広島県病院事業は、平成8年度に「病院事業経営健全化計画」を策定以降、第6次まで病院事業経営計画（以下「計画」という。）を策定し、第6次計画では、「医療機能の強化」、「人材育成機能の維持」、「患者満足度の向上」、「経営基盤の強化」の4つの領域を取組の柱として定めるとともに、領域ごとに取組方針及び具体化方策を定めるなど、病院事業の経営改善に努めてきました。

また、平成21年度には、地域密着型病院であった瀬戸田病院及び神石三和病院を地元市町に移管し、4病院体制から2病院体制にするとともに、病院事業を地方公営企業法全部適用に移行するなど、総務省の示した公立病院改革ガイドラインを踏まえた各種取組を実施してきました。

加えて、平成22年度には、外部有識者の専門的な視点による実践的取組に関する提言を得て、病院経営の充実を図るため、広島県病院経営外部評価委員会を設置し、委員からの厳しい評価や貴重な指摘・助言、経営状況等を踏まえた繰入基準の見直しなど、着実に経営改善に取り組んできました。

一方で、近年の病院を取り巻く経営環境は、診療報酬改定率も低水準で推移するとともに、令和元年からの新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響などにより、非常に厳しい状況となっております。

このような状況下にあっても、県立病院においては、県内の医療水準の向上や県民の健康増進に貢献し、また、自然災害発生時や新興・再興感染症の拡大などの危機管理事案に対しても、十分な検査・診療体制が確保されるなど、多様な医療ニーズに的確に対応し、県民が安心・安全な暮らしを送ることができるよう県立病院としての使命を果たしていく必要があります。

また、新型コロナを契機とした社会環境の変化が急速に進んでおり、医療分野においても、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進や働き方改革がより一層求められております。

令和5年度も、新型コロナの影響などにより、引き続き厳しい経営環境となることが予想されますが、感染症拡大時の対応における県立病院の果たす役割の重要性が改めて認識されたところであり、「県民から信頼される病院」となるよう、病院職員一丸となって、本計画を着実に実行し、より良質な医療サービスを提供するとともに、安定した経営基盤の確立に努め、公共性と経済性の両立を図った病院経営を行ってまいります。

令和5年3月

病院事業管理者 平川勝洋

## 2 計画の更新について

次期計画の策定に当たっては、県内各地域の地域医療構想調整会議において行われる議論等を踏まえるとともに、総務省の示すガイドラインの方向性に沿った内容にしていく必要がありますが、令和2年夏頃を目途に予定していた全国の公立病院のプランの指針となるガイドラインの改定について延期されておりました。

そのような中で、総務省において令和4年3月に新たに公立病院経営強化ガイドラインが示され、地方公共団体に対し、令和5年度までに次期計画に相当する公立病院経営強化プランを策定することが要請されました。

この公立病院経営強化プランは地域医療構想に係る具体的対応方針として位置付けることとされていることも踏まえ、次期計画は地域医療構想と整合的であることが求められますが、地域医療構想については、県において令和5年度を目途として、各医療機関の対応方針の策定や検証・見直しが進められているところです。

以上のことから、病院経営の中期的な指針となる次期計画を令和4年及び令和5年にかけて策定することとし、令和5年度については、第6次計画を1年間更新することとしました。

### 3 第6次計画期間中の成果及び課題

#### (1) 広島病院

##### ア 医療機能の強化・患者満足度の向上

広島県保健医療計画に沿った次の4つの政策医療に特に積極的に取り組み、県全域を視野に入れた基幹病院としての役割を果たしてきました。

1つ目に、「救急医療」については、広島都市圏だけでなく、県全体を俯瞰する救命救急センターとして、平成25年度からドクターヘリ事業に協力するとともに、平成30年7月からドクターカーを運用しております。また、平成31年4月に内科救急診療部を設置し、内科疾患の救急紹介、救急患者に対する窓口を一本化することで、内科救急対応の効率化を図るとともに、令和3年3月には救急外来用のCTを増設するなど、高度・複雑・重症な救急患者の受入体制を強化し、医療機能の維持・強化を図りながら、県内の救急医療に積極的に貢献してきました。

2つ目に、「脳心臓血管医療」については、脳心臓血管センターによる高度で専門的な医療を提供するため、診断初期から関係診療科が連携・協働し、患者にとって最適な診断・治療に取り組んだ結果、脳血管カテーテル治療などの血管内治療や低侵襲手術など、患者の負担が少なく高度な医療の実施件数が増加するとともに、コロナ禍においても積極的に脳心臓血管患者の救急要請を応需し、重症患者を受け入れました。

3つ目に、「成育医療」については、総合周産期母子医療センターとして、合併症妊娠、重症妊娠高血圧症候群、切迫早産の妊婦や1,000g未満の低出生体重児等のハイリスク患者（分娩）の受入など、高度で専門的な医療を提供するとともに、平成30年12月には、日本産科婦人科学会から着床前診断実施施設に認定され、生殖遺伝学に基づいた不妊症や不育症に対する先進医療の提供が可能となりました。また、出生数が減少する中で緊急母体搬送受入件数や生殖医療科採卵件数が増加するなど、成育医療センターとしての役割を果たしました。

4つ目に、「がん医療」については、平成30年4月にがんゲノム医療連携病院に指定され、がん遺伝子パネル検査を実施するなど遺伝子解析を活用した診断に基づく最適医療を推進し、令和4年4月には「ゲノム診療科」を開設しました。また、手術支援ロボットを令和3年9月に導入するなど低侵襲治療の充実を図り、高度・先進医療の提供に取り組みました。

さらに、県で唯一の基幹災害拠点病院として、災害対応について院内での研修の実施に加え、県内の他の災害拠点病院のDMAT隊員の育成や地区医師会での研修に講師を派遣するなどの取組を実施し、災害医療に貢献しました。

また、患者からの意見や要望への適切な対応に努めた結果、入院及び外来の患者アンケートにおいて、満足度がいずれも95%を上回る高い水準を維持しました。

##### イ 地域完結型医療への取組

第6次計画期間中の紹介率及び逆紹介率について、計画開始時からの実績が増加するなど、病院完結型医療から地域完結型医療への転換に向けた地域の医療機関との役割分担や連携の強化が進みました。

## ウ 業務改善・経営基盤の強化

TQM活動や5S活動による業務改善を継続して行った結果、令和3年度のTQM手法の累計習得者数が678名に達し、病棟などにおける作業効率の向上や作業ミスの減少などにより、医療の質の向上を図りました。

また、令和4年度診療報酬改定に伴い、急性期充実体制加算など新規の施設基準の届出を行うとともに、在院日数の適正化などの取組が奏功し、入院単価は高い水準を維持しました。

令和3年度決算では、令和2年度に引き続き、新型コロナの影響により入院患者数が減少し、厳しい医業収支となった一方で、新型コロナ患者の受け入れに伴う病床確保料を始めとする新型コロナ関連の補助金などにより、経常収支は黒字となりました。

## エ 医療を担う人材の確保・育成

基幹型臨床研修病院として臨床研修医の受入を行い、県内外から医師を確保するとともに、臨床研修指導医の下、若手医師の育成に積極的に取り組みました。また、特に医師が不足する中山間地域へ医師を派遣するなど地域医療の確保に貢献しました。

加えて、各種院内研修に地域の医療従事者を受け入れるとともに、他の医療機関などからの依頼により、医師や看護師等を講師として派遣するなど、院外の医療人材育成にも取り組み、県内の医療水準の向上に貢献しました。

## オ 新型コロナウイルス感染症への対応

「広島県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、県からの要請に従い県内最多の感染患者受入病床数を確保し、新型コロナ患者受入の中心的な医療機関として、医療提供体制を構築するなど、県の医療政策の方向性と軌を一にしてきました。

特に、基礎疾患を有する患者や酸素投与を必要とする中等症患者を積極的に受け入れるとともに、発熱外来については、全科で協力して対応しました。

また、人工呼吸器を必要とする重症患者の受入についても積極的に行うとともに、療養に配慮を必要とする状態の感染者である妊産婦、透析患者、小児患者、精神疾患患者など他院での受入が困難な患者を率先して受け入れるなど県内の医療提供体制の維持のため、新型コロナ対応の先頭に立ち、県の基幹病院としての使命を果たしてきました。

## カ 働き方改革

これまで医師事務作業補助者の配置、複数主治医制の導入、チーム医療の推進などの取組を通じ、医師を中心に時間外勤務の縮減や有給休暇の取得日数増加など一定の成果があったところです。

今後の働き方改革等に関しては、令和6年4月から、医師についても時間外労働の上限規制が適用される予定となっており、広島病院においても自らの状況を適切に分析し、この規制に適応できるよう計画的に取り組む必要があります。

## (2) 安芸津病院

### ア 地域包括ケアシステムの質の向上への貢献

地域の医療ニーズに応えていくため、平成 29 年 4 月から地域包括ケア病床を 8 床増床した 29 床とし、比較的長期の入院への対応や在宅復帰支援機能を強化することで、安芸津町で唯一の入院機能を有する医療機関としての役割を果たしました。

さらに、地域の医療機関や介護施設等と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションなどにより、在宅で生活している患者の QOL の向上や在宅療養支援の充実に取り組むとともに、看護師等が退院前の外出に同行して生活状況を把握する退院前訪問や、退院後 2 日～3 日を目途に電話を行い支障なく生活が送れているかを確認する退院後電話訪問など、患者が安心して自宅に帰れる取組を行いました。また、令和 3 年度からは地域ケアマネージャーとの定例会の開催や対面による講座開催に代わる生活習慣病ミニ講座リーフレットを配布するなど、コロナ禍においても地域包括ケアシステムの質の向上に積極的に貢献しました。

### イ 地域の医療機能の維持

地域の急性期病院と病院群輪番制病院体制を維持し、安芸津・竹原・大崎上島地域における急性期医療の維持に努めるとともに、小児科においては常勤医師がいない中で広島大学の協力を得て毎日の診療（18 時までの診療体制を確保）を継続するなど、地域で不足している医療機能の維持・確保を図りました。

また、病院の専門性や機能を活かし、骨粗鬆症外来や人工関節外来などの専門外来及び整形外科のアウトリーチクリニックを実施するとともに、令和 3 年 4 月からは呼吸器外来や乳腺専門外来、胆・膵疾患外来を新たに実施するなど、地域の医療機能の向上にも努めました。

加えて、「広島県新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関」として、保健所等と連携して新型コロナ患者の外来診療を実施し、ドライブスルー方式による検体採取などの対応を行うとともに、コロナ専用病床を整備して入院患者の受入を行ってきました。

さらに、令和 4 年 1 2 月から「広島県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、新型コロナ専用病床を増床し、地域におけるワクチン接種やクラスター発生施設への感染管理認定看護師の派遣による支援などに取り組むことよって県立病院としての役割を果たしました。

### ウ 業務改善・経営基盤の強化

TQM 活動や 5 S 活動による業務改善を継続して行った結果、院内におけるインシデントの減少や検査の待ち時間が短縮するなど、医療の質の向上が図られました。

また、患者からの意見や要望への適切な対応に努めた結果、入院患者アンケートにおける満足度について令和 3 年度においては 94.8% と高い水準を維持しました。

地域包括ケア病床の増床や専門外来、アウトリーチクリニックの実施など、地域に必要なとされる医療の提供を行うとともに、令和 4 年度診療報酬改定に伴い、看護補助体制充実加算など新規の施設基準の届出を行うことで増収に努めました。

令和 3 年度決算では、少子化及び高齢化により人口減少が進む地域において新型コロナの影響もあり、入院・外来ともに患者数が減少し、厳しい医業収支となった一方で、新型コロナ患者の受け入れに伴う病床確保料を始めとする新型コロナ関連の補助金などにより、経常収支は黒字となりました。



## エ 耐震化対応

耐震化対応については、地域医療を支える県立病院としての使命（病院に求められる機能の充実）を果たしていくとともに、収支も踏まえ、持続可能な病院経営を確保することが可能となるようバランスが取れた適正規模での対応とする必要があります。

そのため、令和元年9月に広島県病院経営外部評価委員会内に医療関係者や地元自治体職員等で構成する安芸津病院耐震化対応検討専門部会（以下「専門部会」という。）を設置し、具体化に向けた議論を重ねています。

## オ 働き方改革

これまで、特に医師を中心とした負担軽減のために、看護師・放射線技師・薬剤師等による電子カルテへの代行入力や事務職による出張等に係る各種手続きの作成支援の取組を行っており、また、診療において各科の主治医以外でも患者対応ができるチーム医療の実践や広島大学病院等から診療援助を受けて診療体制を維持しつつ、時間外勤務の縮減や有給休暇の取得日数の増加に努めましたが、十分でないため、引き続き時間外勤務の縮減や有給休暇の取得等に取り組む必要があります。

## 4 課題解決に向けた取組方針

### (1) 広島病院

#### ア 医療機能の強化・患者満足度の向上

三次保健医療圏（広島県全域）を視野に入れ、高度・専門的な医療の提供や特殊な診断や治療を必要とする医療需要に対応可能な機能の維持向上を目指します。

具体的には、複数診療科の連携による脳心臓血管センター、呼吸器センター、消化器センターなどの専門医療センターにおいて、高度医療の強化に取り組みます。

特に、地域がん診療連携拠点病院として、令和3年度に導入した手術支援ロボットによる対象手術の範囲拡大や令和4年度に更新した高精度放射線治療システム（リニアック）を活用し、治療の高度化及び安全性の向上を図るとともに、令和4年度に設置したゲノム診療科によるがんゲノム医療の推進など、がん医療の対応強化に継続して取り組みます。

また、ドクターカーの運用や内科救急診療部による救急患者受け入れの迅速化など救急医療の強化を図るとともに、総合周産期母子医療センターとして周産期におけるハイリスク患者に対する質の高い医療を提供することで県における基幹病院としての役割を果たします。

加えて、患者が抱える課題に対し、多職種からなるチーム（栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、糖尿病チーム、口腔ケアチーム、摂食嚥下チーム、認知症ケアチーム、精神科リエゾンチーム、周術期管理チーム）を編成し、それぞれの専門知識を活用して早期回復及び早期退院に努めるなど医療の質と患者満足度の向上を図ります。

さらに、入退院関連業務を集約した患者総合支援センターによる患者及び家族の入退院に関する相談などのワンストップ支援を継続することに加え、令和4年度から併設した周術期管理センターにおいて、手術患者の課題について入院前から多職種で支援することにより、術後の早期回復及び早期退院を目指します。

#### イ 地域完結型医療への取組

高度急性期機能の役割を発揮するため、地域の医療機関との連携による役割分担を積極的に行うことにより患者紹介及び逆紹介を推進するとともに、医療機能の強みや特色をPRすることに努め、患者や地域から選ばれる病院を目指します。

#### ウ 業務改善・経営基盤の強化

がん医療の高度化による高額な抗がん剤の使用量の増加や血管内治療の普及などによる材料費が増加する中で、新型コロナの影響などにより減少した入院患者数の回復を図るため、救命救急センターや専門医療センターなどの強みや特色を活かした病院経営に努めるとともに、DPC機能評価係数Ⅱの維持・向上や令和4年度診療報酬改定を踏まえた施設基準の届出・算定を適確に行い増収を図りながら、材料費や経費などの費用の合理化を図るなど、収支改善に取り組みます。

## エ 医療を担う人材の確保・育成

初期臨床研修プログラムや専門研修プログラムの充実を図り、県内外からの若手を中心とした医師の確保に積極的に取り組むとともに、臨床研修指導医の養成に注力することなどにより、将来の医療を担う人材の育成に努めます。

また、より高度で専門的な治療・看護水準の維持・向上を図るため、認定・専門資格などを有する看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等を計画的に養成します。

加えて、大学や専門学校などの幅広い分野の実習教育の受入や地域の医療従事者が参加する実務研修の開催、地域の医療機関へのTQM活動の普及啓発など、地域医療で活躍する人材の育成・支援に取り組み、県全体の医療水準の向上に貢献します。

## オ 新型コロナウイルス感染症への対応

県の医療施策に積極的に協力し、引き続き新型コロナ患者の受入・治療に努めるなど、県立病院としての役割を果たしていくとともに、院内感染による患者及び職員の二次感染を防止するため、徹底した感染防止策を講じます。

また、ポストコロナにおいても県立病院として期待される機能を強化し、持続可能な地域医療提供体制の効率的な運用に貢献します。

## カ 働き方改革

今後の医療法など医療関連法令の改正による各種の規制緩和の活用や、各職種がそれぞれの専門性を十分に発揮するための勤務環境の整備、タスク・シフティング、タスク・シェアリング、ICT技術の積極的導入などに取り組むことにより、更に職員のワーク・ライフ・バランス及び医療の質の双方の向上を目指していきます。

## (2) 安芸津病院

### ア 地域包括ケアシステムの質の向上への貢献

少子化及び高齢化により人口減少が進む地域において、地域包括ケアシステムの拠点病院としての県内のモデルとなるよう、地域の医療機関や介護施設、行政等と連携し、地域住民の健康と暮らしを支える取組を進めていきます。

そのため、予防医療の推進に向け、コロナ禍のために休止していた医療公開講座や地域イベントへの参加、地元企業や行政機関への訪問を再開するなどにより健（検）診受診を促進するとともに、地域の医療機関等と連携して、在宅看取りを含めた在宅療養支援を更に充実していきます。

また、令和5年度中に、地域のニーズが高い地域包括ケア病床を更に拡充し、効果的に運用することで在宅復帰に向けた支援を切れ目ないものとしていきます。

加えて、サブアキュートだけでなく、近隣の（高度）急性期病院と連携し、ポストアキュート受入れにも取り組みます。

### イ 地域の医療機能の維持

地域の中核的病院として、地域住民が安心して生活していくことができるよう、骨粗鬆症外来など特定専門外来の開設やアウトリーチクリニックの実施など専門医療の更なる充実を図るとともに、救急医療や小児医療などの政策医療の提供体制の維持・確保に努めます。

また、新型コロナ対応について、引き続き新型コロナ患者の受入・療養に努め、発熱外来の開設や地域におけるワクチン接種や近隣施設への感染対策に係る支援などに取り組みすることによって県立病院としての役割を果たします。

### ウ 業務改善・経営基盤の強化

少子化及び高齢化により人口減少が進む地域にあつて、持続的な病院経営を図るため、患者満足度の向上につながるTQM活動や5S活動を継続実施するなど、引き続き業務改善に取り組むとともに、病棟・病床の弾力的な運営により、病床稼働率の向上を図ります。

また、地域の医療機関との連携により患者紹介及び逆紹介に注力するとともに、地域の医療機関や介護施設への訪問などにより顔の見える関係を構築し、新型コロナの影響などにより減少した入院及び外来の患者数の回復に努めます。

加えて、令和4年度診療報酬改定を踏まえた施設基準の届出・算定を適確に行い、材料費や経費などの費用の合理化を図るなど、収支改善に取り組めます。

### エ 耐震化対応

専門部会等での議論や新型コロナによる影響を見極めつつ、患者予測やその他周辺状況も踏まえ、地域に必要な医療提供体制を維持・確保していくために、耐震化対応の具体化に向けて検討を進めていきます。

### オ 働き方改革

安芸津病院においても、広島病院における取組同様、職員のワーク・ライフ・バランスの充実と患者サービスの向上ため、複数の医師が1人の患者の診療に当たるチーム医療の推進による個人負担の軽減、また、職員の時間外勤務の縮減や有給休暇の取得等に積極的に取り組みます。

## 5 第6次計画期間中の決算(見込み)及び令和5年度の収支計画

### (1) 病院事業全体

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4見込み	R5	
入院延患者数	250,981	228,278	227,031	202,884	187,044	調整中		
外来延患者数	362,844	347,100	330,427	295,378	301,577			
年 度	H29	H30	R元	R2	R3			
病院事業収益								
医業収益	23,831	23,501	23,998	22,950	23,341			
うち入院収益	16,703	16,288	16,609	15,762	15,631			
うち外来収益	6,432	6,512	6,691	6,525	7,045			
医業外収益	2,259	2,381	2,079	4,159	6,300			
うち長期前受金戻入	519	522	488	482	519			
特別利益	1	3	4	391	1			
合計	26,091	25,884	26,081	27,501	29,641			
病院事業費用								
医業費用	24,990	25,149	25,760	26,011	26,520			
うち給与費	13,142	13,124	12,994	13,257	13,217			
うち材料費	7,296	7,315	7,958	7,886	8,244			
うち経費	3,161	3,173	3,298	3,401	3,578			
うち減価償却費	1,242	1,398	1,363	1,380	1,385			
医業外費用	603	565	571	496	447			
うち支払利息	414	367	317	268	217			
うち負担金	91	99	157	135	130			
特別損失	989	983	26	392	4			
合計	26,583	26,697	26,357	26,900	26,971			
経常損益	496	167	▲ 254	602	2,674			
特別損益	▲ 988	▲ 980	▲ 22	▲ 1	▲ 3			
収益的収支差引	▲ 492	▲ 813	▲ 276	601	1,723			
資本的収入								
企業債	1,091	700	623	641	810			
負担金等	775	839	860	1,261	958			
その他	9	7	3	14	9			
合計	1,874	1,545	1,486	1,916	1,777			
資本的支出								
建設改良費	1,115	784	659	1,031	927			
企業債償還金	2,096	2,335	2,447	2,498	2,473			
その他	193	193	193	126	122			
合計	3,404	3,312	3,299	3,655	3,522			
資本的収支差引	▲ 1,530	▲ 1,767	▲ 1,813	▲ 1,739	▲ 1,745			
単年度資金収支	▲ 107	▲ 893	▲ 1,068	▲ 86	2,062			
年度末内部留保	3,937	3,045	1,976	1,890	3,952			
<繰入金>								
一般会計繰入金合計	2,640	2,628	2,614	4,973	6,865			
収益的収入繰入金計	1,865	1,789	1,753	3,802	5,947			
資本的収入繰入金計	775	839	860	1,171	918			
経常収支比率	101.9%	100.6%	99.0%	102.3%	109.9%			
医業収支比率	95.4%	93.4%	93.2%	88.2%	88.0%			
給与費/医業収益	55.1%	55.8%	54.1%	57.8%	56.6%			
材料費/医業収益	30.6%	31.1%	33.2%	34.4%	35.3%			
病床稼働率	86.2%	78.4%	77.7%	69.5%	64.2%			

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

(2) 広島病院

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4見込み	R5
入院延患者数	217,436	199,610	197,928	176,276	168,290		
外来延患者数	295,372	282,318	267,446	242,171	249,808		
年 度	H29	H30	R元	R2	R3		
病院事業収益							
医業収益	22,131	21,924	22,413	21,458	22,080		
うち入院収益	15,651	15,321	15,632	14,848	14,980		
うち外来収益	5,910	6,029	6,215	6,073	6,567		
医業外収益	1,943	2,056	1,772	3,732	5,445		
うち長期前受金戻入	467	474	439	434	465		
特別利益	1	3	4	352	1		
合 計	24,075	23,983	24,189	25,543	27,525		
病院事業費用							
医業費用	22,980	23,128	23,758	24,011	24,459		
うち給与費	11,961	11,921	11,829	12,091	12,039		
うち材料費	6,972	7,000	7,642	7,588	7,938		
うち経費	2,765	2,775	2,889	2,972	3,120		
うち減価償却費	1,140	1,301	1,258	1,276	1,273		
医業外費用	588	551	552	479	431		
うち支払利息	413	366	317	268	217		
うち負担金	85	93	147	126	123		
特別損失	924	907	26	354	4		
合 計	24,492	24,586	24,336	24,844	24,894		
経常損益	506	302	▲126	700	2,635		
特別損益	▲923	▲904	▲22	▲1	▲3		
収益的収支差引	▲417	▲603	▲147	699	2,632		
資本的収入							
企業債	1,043	592	564	594	739		
負担金等	675	737	765	1,133	845		
その他	9	7	3	14	9		
合 計	1,727	1,337	1,332	1,741	1,593		
資本的支出							
建設改良費	1,065	618	596	968	825		
企業債償還金	2,022	2,259	2,384	2,434	2,406		
その他	102	102	102	69	64		
合 計	3,189	2,979	3,081	3,471	3,296		
資本的収支差引	▲1,462	▲1,642	▲1,749	▲1,730	▲1,703		
単年度資金収支	▲95	▲660	▲940	▲45	1,991		
<繰入金>							
一般会計繰入金合計	2,216	2,200	2,195	4,492	5,912		
収益的収入繰入金計	1,541	1,463	1,430	3,401	5,089		
資本的収入繰入金計	675	737	765	1,091	823		
経常収支比率	102.1%	101.3%	99.5%	102.9%	110.6%		
医業収支比率	96.3%	94.8%	94.3%	89.4%	90.3%		
給与費／医業収益	54.0%	54.4%	52.8%	56.3%	54.5%		
材料費／医業収益	31.5%	31.9%	34.1%	35.4%	35.9%		
病床稼働率	85.1%	78.1%	77.3%	68.8%	65.7%		

調整中

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

(3) 安芸津病院

(単位:人)

年 度	H29	H30	R元	R2	R3	R4見込み	R5
入院延患者数	33,545	28,668	29,103	26,608	18,754		
外来延患者数	67,472	64,782	62,981	53,207	51,769		
年 度	H29	H30	R元	R2	R3		
病院事業収益							
医業収益	1,700	1,576	1,585	1,492	1,261		
うち入院収益	1,052	967	977	914	652		
うち外来収益	522	482	476	451	478		
医業外収益	316	324	307	427	855		
うち長期前受金戻入	52	48	49	48	55		
特別利益	0	0	0	39	0		
合 計	2,015	1,901	1,892	1,958	2,116		
病院事業費用							
医業費用	2,010	2,021	2,002	2,000	2,061		
うち給与費	1,181	1,204	1,165	1,166	1,178		
うち材料費	324	315	316	298	306		
うち経費	396	398	410	429	457		
うち減価償却費	102	97	105	103	112		
医業外費用	15	14	19	17	16		
うち支払利息	2	1	1	0	0		
うち負担金	6	6	10	8	8		
特別損失	66	76	0	39	0		
合 計	2,090	2,111	2,020	2,056	2,077		
経常損益	▲ 9	▲ 135	▲ 129	▲ 98	39		
特別損益	▲ 66	▲ 76	0	0	0		
収益的収支差引	▲ 75	▲ 211	▲ 129	▲ 98	39		
資本的収入							
企業債	48	107	59	48	71		
負担金等	100	101	95	128	113		
その他	0	0	0	0	0		
合 計	147	208	154	175	184		
資本的支出							
建設改良費	50	166	63	63	102		
企業債償還金	74	75	63	64	67		
その他	91	91	91	57	57		
合 計	215	333	217	184	226		
資本的収支差引	▲ 68	▲ 125	▲ 63	▲ 9	▲ 41		
単年度資金収支	▲ 12	▲ 233	▲ 128	▲ 42	72		
<繰入金>							
一般会計繰入金 合計	424	428	418	481	953		
収益的収入繰入金 計	324	327	324	401	858		
資本的収入繰入金 計	100	101	95	80	95		
経常収支比率	99.5%	93.4%	93.6%	95.2%	101.9%		
医業収支比率	84.6%	78.0%	79.2%	74.6%	61.2%		
給与費 / 医業収益	69.5%	76.4%	73.5%	78.2%	93.5%		
材料費 / 医業収益	19.1%	20.0%	19.9%	20.0%	24.3%		
病床稼働率	93.8%	80.1%	81.1%	74.2%	52.3%		

(注)端数処理の関係で合計等が一致しない場合がある。

調整中

# 6 目標指標 (1) 広島病院

目標指標		H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標	
		H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績 (見込み)		
(1) 医療機能の強化									
I 医療提供体制の強化									
救急	1) 救急車受入台数	5,500台 6,066台	5,700台 6,089台	5,850台 6,049台	6,000台 5,736台	6,000台 6,611台	6,500台 7,757台	8,000台	
	2) 三次救急(ホットライン)受入率						100% 89.5%	100%	
	3) 二次医療機関からの重症患者受入応需率							100% 93.3%	100%
脳心臓	4) 脳血管系と心血管系の新規入院患者及び救急外来からの緊急入院患者数							3,000人 3,000人	
	5) 急性心筋梗塞PCI件数							130件 130件	
	6) 急性期脳卒中に対する tPA治療件数							40件 30件	調整中
	7) 急性期脳卒中に対する血管内カテーテルによる血栓回収療法件数							30件 36件	40件
	8) 未破裂、破裂動脈流の治療件数							75件 60件	調整中
	9) 心大血管手術件数							75件 70件	80件
	10) 急性期リハビリテーション件数 (脳血管疾患等リハビリテーション件数及び心大血管疾患リハビリテーション件数の合計)							45,000件 40,200件 40,506件	41,800件
	11) 1,000g未満出生新生児患者数受入の県内割合							50% 50.0%	54%
成育	12) 緊急母体搬送受入件数							150件 202件	150件
	13) 生殖医療科採卵件数							300件 241件	調整中
	14) 生殖医療科遺伝カウンセリング件数							110件 62件	調整中
	15) 生殖医療科で妊娠が成立した妊婦が産婦人科へ院内紹介された件数							100件 135件	135件
	16) がん患者数(入院)							5,000人 4,856人	5,400人
がん	17) がんゲノム検査件数							120件 212件	230件
	18) 消化器センター新規入院患者数							2,400人 2,648人	2,600人
その他	19) 全身麻酔手術件数							4,400件 4,642件	4,800件
	20) 遺伝カウンセリング算定件数							120件 170件	230件
	21) DPC/PDPS入院期間 I での退院例のパス適用率、DPC/PDPS入院期間 II での退院例のパス適用率							I :40% II :50% I :33.9% II :57.5%	I :35% II :60%



目標指標		H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
		H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績 (見込み)	
(1) 医療機能の強化								
II 医療の安全と質の向上								
チーム医療の推進	22) 認知症ケア加算算定件数	2,622件	2,123件	1,813件	2,267件	3,313件	2,500件 5,209件	2,500件 3,500件
	23) 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数	2,212件	3,751件	3,832件	3,891件	3,800件 3,648件	3,800件 3,558件	3,800件 3,800件
	24) 栄養サポートチーム加算算定件数	940件	868件	1,132件	797件	660件	1,100件 800件	1,100件 1,100件
	25) 糖尿病透析予防指導管理料算定件数	36件	24件	0件	10件	16件	10件 13件	20件
	26) 周術期口腔機能管理料算定件数	8,663件	6,275件	6,020件	6,049件	6,344件	6,000件 7,335件	7,500件
	27) 摂食機能療法算定件数	1,133件	1,062件	445件	596件	758件	600件 894件	1,000件
	28) 精神科リエゾンチーム加算算定件数	26件	97件	88件	84件	91件	100件 101件	100件
	看護の質向上	29) 転倒・転落発生率 レベル2以上 (軽度の処置を必要とした)	-	-	2.30%	0.47%	0.30%以下 0.29%	0.30%以下 0.23%
30) 既に有していた褥瘡の改善率		-	-	69.0%	71.7%	71.0%	72% 69.0%	72%
31) せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数		-	-	-	7,109件	8,000件 8,628件	8,000件 9,346件	9,000件
32) がん患者指導管理料算定件数(ロ※) ※がん患者指導料のうち看護師関与分		283件	324件	293件	341件	251件	400件 294件	調整中
その他	33) 入院期間Ⅱ超え割合	28.0%	27.6%	26.7%	25.6%	25% 21.2%	20% 23.3%	25%
	34) インフルエンザ・COVID-19アウトブレイク件数	1件	1件	1件	0件	2件	0件 4件	0件
III 危機管理対応力の強化								
35) 院内災害対応訓練延参加者数	-	-	106人	2,191人	3,621人	2,500人 3,238人	2,500人	
36) 当院企画の災害訓練・研修会への延参加医療機関数	-	-	9施設	10施設	64施設	18施設 134施設	50施設	
IV 地域連携の強化								
37) 患者紹介率	83%	85%	87%	90%	93%	93%	93%	
	97.7%	93.4%	93.5%	88.1%	93.8%	93.8%	93%	
38) 患者逆紹介率	100%	105%	107%	110%	120%	125%	125%	
	114.1%	125.6%	120.6%	120.7%	141.3%	140.2%	125%	
39) 院内研修への地域医療従事者の参加者数	450人	450人	450人	450人	450人	160人 160人	160人	
	484人	620人	567人	170人	677人	160人	160人	
40) 地域への教育活動件数					280件	280件	280件	
	390件	257件	289件	196件	334件	280件	280件	

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績 (見込み)	
<b>(2) 人材育成機能の維持</b>							
<b>V 医師の確保・育成</b>							
41) 専門研修プログラム専攻医数	-	広病 0人 他 31人	広病 1人 他 32人	広病 3人 他 35人	広病 5人 他 22人	広病 2人 他 40人 広病 5人 他 21人	広病4人 他25人
42) 臨床研修指導医新規受講者数	6人	6人	7人	0人	7人 11人	7人 8人	7人
43) 初期臨床研修医採用マッチ率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
44) 初期臨床研修医広島県内定着率	81.3%	85.7%	94.1%	88.9%	100%	94.1% 87.5%	調整中
45) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数[新規]	-	-	-	-	-	調整中	5人以下
46) 医師一人当たりの時間外勤務時間[新規]	-	-	-	-	-	調整中	対前年度比 10%縮減
<b>VI 看護師等の確保・育成</b>							
47) 看護師の離職率(定年退職を除く)	-	-	6.64%	6.69%	3.62%	6.60% 4.69%	6.60%
48) 認定・専門・特定行為研修修了看護師数領域別 確保数 【17領域37名(新規2名)、(特定行為研修者ががん薬物療法(1) 心不全看護(1))】	1人	2人	1人	0人	2人 1人	2人 3人	3人
49) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的 資格取得者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ、ME)	147人	129人	114人	19人	60人 95人	60人 95人	100人
50) 学生実習の受け入れ実績 (まん延防止等重点措置以上の対策期間中以外は原則受け入れる)	426人	478人	437人	69人	440人	100人 400人	450人
<b>VII 県内医療水準向上への貢献</b>							
51) 医師・看護師等の講師派遣回数	200回 390回	200回 257回	200回 289回	200回 203回	200回 589回	200回 626回	600回
<b>(3) 患者満足度の向上</b>							
<b>VIII 患者満足度の向上</b>							
52) 患者意見箱に投稿された意見に対して実効的な改善に取り組んだ割合	78.2%	68.4%	88.6%	65.0%	56.7%	75% 64.4%	75%
53) 患者アンケートの満足度(入院・外来)	97.3%	96.4%	97.1%	97.0%	97.3% 97.5%	97.5% 97.5%	97.5%
<b>IX 業務改善</b>							
54) TQM手法習得者数(累積)	219人	329人	431人	541人	652人	719人 752人	841人
<b>X 広報の充実</b>							
55) 取材協力件数	4件	4件	6件	8件	10件 34件	10件 17件	10件
56) プレスリリース件数	1件	0件	0件	0件	5件 2件	5件 4件	5件

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績 (見込み)	
(4) 経営基盤の強化							
X I 経営力の強化							
57) 新規入院患者数	16,920人	17,000人	17,000人	17,000人	17,000人	16,900人	17,900人
	17,313人	16,834人	16,825人	15,624人	15,895人	16,527人	
58) 病床稼働率(700床)	87.7%	88.1%	87.9%	88.1%	70.0%	66.0%	70.3%
	85.1%	78.1%	77.3%	71.5%	65.9%	68.7%	
X II 増収対策							
59) 入院単価	68,846円	69,200円	69,600円	70,000円	83,029円	89,800円	92,800円
	71,980円	76,753円	78,977円	82,902円	89,013円	90,440円	
60) 特定入院料の算定率(ICU)					90%	90%	90%
					92.6%	90.0%	
61) 特定入院料の算定率(HCU※) ※救命救急入院料算定病床					51%	51%	55%
					57.6%	54.2%	
X III 費用合理化対策							
62) 材料費/医業収益	30.3%	30.4%	30.7%	31.1%	36.1%	36.1%	36.1%
	31.5%	31.9%	34.1%	35.7%	36.8%	37.5%	
63) 後発医薬品及びバイオ後続品効果額					35,000千円	160,000千円	180,000千円
	-	-	32,170千円	54,876千円	60,758千円	120,000千円	

## (2) 安芸津病院

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績 (見込み)	
(1) 医療機能の強化							
I 医療提供体制の強化							
1)手術件数	380件	380件	380件	380件	290件	290件	290件
	344件	326件	278件	262件	211件	258件	
2)内視鏡検査件数	1,850件	1,900件	1,950件	2,000件	1,900件	1,900件	1,900件
	1,693件	1,650件	1,698件	1,505件	1,387件	1,400件	
3)救急搬送受入件数	370件	370件	370件	370件	370件	370件	420件
	401件	349件	406件	359件	301件	406件	
4)専門外来受診患者数 (糖尿病, 人工関節, 骨粗鬆症, フットケア)					770人	950人	1,080人
	328人	575人	665人	754人	954人	1,046人	
5)健(検)診件数	2,337件	2,337件	2,337件	2,337件	2,790件	2,790件	2,790件
	2,715件	2,838件	3,254件	2,743件	3,019件	2,600件	
6)訪問看護新規者数						32人	32人
	28人	27人	27人	30人	28人	12人	
7)地域包括ケア病床における在宅復帰率	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	85.0%	85.0%	85%
	89.2%	81.7%	84.9%	89.1%	78.6%	85.7%	
II 医療の安全と質の向上							
8)転倒・転落発生率(レベル2以上)					0.00020	0.00020	0.00020
	0.00027	0.00045	0.00055	0.00019	0.00048	0.00020	
9)入退院支援加算算定件数					800件	800件	調整中
	607件	729件	834件	769件	676件	646件	
10)せん妄ハイリスク患者ケア加算算定件数						580件	580件
	-	-	-	573件	553件	570件	
認知症ケア加算算定件数 (14日以内の期間)						300件	廃止
	-	-	-	301件	164件	0件	
11)在宅患者支援病床初期加算算定件数						830件	830件
	-	-	-	694件	762件	800件	
III 危機管理対応力の強化							
12)感染症に関する研修参加率						100%	100%
	-	-	-	-	100%	100%	
IV 地域連携の強化							
13)介護支援連携指導料算定件数	120件	120件	120件	120件	200件	200件	調整中
	127件	123件	228件	124件	47件	30件	
14)患者紹介率					23.0%	23.0%	23.0%
	18.8%	17.9%	20.4%	21.5%	17.7%	18.0%	
15)患者逆紹介率					30.0%	30.0%	30.0%
	23.4%	26.1%	28.4%	29.7%	28.6%	21.3%	

目標指標	H29目標	H30目標	R元目標	R2目標	R3目標	R4目標	R5目標
	H29実績	H30実績	R元実績	R2実績	R3実績	R4実績 (見込み)	
(2) 人材育成機能の維持							
V 医師の確保・育成							
16) 初期臨床研修 地域医療研修の受入人数	7人	7人	7人	7人	8人	8人	調整中
	10人	8人	8人	8人	8人	7人	
17) 年間時間外勤務960時間を超過する医師数[新規]	/	/	/	/	/	0人	0人
18) 医師一人当たりの時間外勤務時間[新規]	/	/	/	/	/	/	対前年度比 10%縮減
	-	-	-	-	-	調整中	
VI 看護師等の確保・育成							
19) 認定・専門看護師数	/	/	/	/	1人	1人	1人
	0人	0人	0人	0人	1人	0人	
20) メディカルスタッフ部門の認定資格取得・専門的研修参加者数 (放射線、検査、薬剤、栄養、リハビリ)	/	/	/	/	1人	1人	1人
	1人	1人	0人	0人	4人	1人	
VII 県内医療水準向上への貢献							
21) 地域開放型研修会の参加者数 ※(地域への講師派遣を含む。)[変更]	/	/	/	/	/	/	50人
	186人	194人	153人	0人	30人	30人	
(3) 患者満足度の向上							
VIII 患者満足度の向上							
22) 患者アンケートの満足度(入院)	95.0%	95.0%	95.0%	95.0%	98.0%	98.0%	98.0%
	97.9%	97.1%	97.4%	99.1%	94.8%	98.0%	
23) 電話再診件数	/	/	/	/	250件	200件	350件
	0件	0件	11件	188件	363件	350件	
IX 業務改善							
24) TQM手法習得者数	/	/	/	/	20人	10人	10人
	20人	33人	23人	0人	0人	9人	
25) 5S活動参加率	/	/	/	/	/	70.0%	80.0%
	-	-	-	-	91.0%	80.0%	
X 広報の充実							
26) HP閲覧件数	/	/	/	/	16,500件	16,500件	23,000件
	-	-	-	-	22,673件	23,000件	
(4) 経営基盤の強化							
XI 経営力の強化							
27) 新規入院患者数	/	/	/	/	/	1,000人	1,000人
	1,192人	1,056人	1,112人	988人	830人	863人	
28) 病床稼働率(98床)	/	/	/	/	73.6%	90.0%	90.0%
	93.8%	80.1%	81.1%	74.4%	65.7%	65.0%	
XII 増収対策							
29) 地域包括ケア病床稼働率	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%	98.0%
	101.0%	93.1%	89.9%	89.7%	63.3%	65.0%	
30) 入院単価	/	/	/	/	/	35,000円	37,990円
	31,358円	33,737円	33,561円	34,356円	34,207円	38,000円	
XIII 費用合理化対策							
31) 材料費/医業収益	/	/	/	/	22.8%	22.8%	22.8%
	19.1%	20.0%	19.9%	20.0%	24.3%	29.0%	
32) 後発医薬品及びバイオ後続品効果額	/	/	/	/	/	300千円	760千円
	-	-	-	-	150千円	760千円	

広島県病院事業経営計画  
【第6次：更新版】

発行年月 令和5年3月

編集・発行 広島県病院事業局県立病院課

〒730 - 8511 広島市中区基町 10 - 52

TEL (082) 513 - 3235 (ダイヤルイン)